生徒の様子（縫工班9名）

○　1年生：初めて作業学習に取り組む生徒、これまでに取り組んだことがある生徒が混在
○　2・3年生：どの生徒も、高等部での作業学習において、物づくりの経験あり
○　様々な実態の生徒
　・時間いっぱい継続して活動することを目標にしている生徒
　・報告や相談を上手くできない生徒
　・ショップでの売り上げを基に、売れそうな製品を考えたり、数種類の工程を1人で行えたりする生徒、等

本題材における「育成を目指す資質・能力」との関連

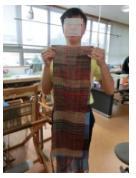
知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
○　はたらくために必要な知識・技能 ○　コミュニケーションに関する知識・技能	○　課題を見いだし解決する力 ○　状況に応じて判断する力・対応する力	**○　学ぶ・はたらくことに対してやりがいを感じ、意欲的・主体的に取り組む態度** **○　自ら振り返り改善しようとする態度** **○　人々とのかかわり、協力・協働しようとする態度**

題材・単元の目標

「知識・技能」
・作業で使う道具や用具を安全に取り扱い、集中して作業に取り組むことができる。
・場や状況に応じた言葉遣いができる。

「思考力・判断力・表現力等」
・自分ができる作業を自ら選択して、目標を達成することができる。
・わからないときや困ったときに相談することで、状況に応じた行動をすることができる。

「関心・意欲・態度」
・戦略会議を通して、製作する製品を決めたり担当する 作業を自ら決めたりすることができる。
・課題や良い点に気付き、次の目標に 生かすことができる。



アクティブ・ラーニングの視点に立った授業作りの工夫（主体的・対話的で深い学びのために）

主体的な学びのために、
a　目標ボードに目標や活動を自分で決め設定
b　これまでのデータを基に、目標を自分自身で設定
c　作業終了後における、自己評価による作業の振り返り
d　作業の細分化・視覚化
　→自分の活動を決める手がかりへ

対話的な学びのために
e　ショップ販売を基に戦略会議
　→役割分担で、自分のできる工程を決定
f　完成した製品を展示
　→仕上がりを意識した丁寧な作業へ

深い学びのために
g　ショップでの販売実績から戦略会議で今後製作する製品を決定
h　活動終了時における、自己評価と教師や班員からの他者評価の比較
　→より正確な評価へ
i　表計算ソフトを使った数値入力
　→根拠ある自己目標の設定へ

題材（単元等）の計画

期	時	学習内容
1	13	作業工程の経験・理解・検討
2	17	製品製作　※1 ショップオープン
3	16	販売製品の検討、役割分担、製作
4	16	販売製品の検討、製品製作

※1 ショップ販売

週の学習計画

	火	水	木
午前	※2 戦略会議 製品作り	製品作り	ショップ／製品作り
午後			

※2 戦略会議
木曜のショップ開催での売り上げを基に実施した。
全体で売れたものの確認、売れそうなものは何か、今後製作する製品をどうしていくかということについて話し合いを行った。

経過と結果

広用紙などだと長期間の出来高記録・確認が難しい・・・

表計算ソフト活用による出来高把握
上記b, i

スクロールすることですぐに確認できた

これまでの最高値を意識できた

自己目標の設定 振り返り活動
上記a, b, c, h

持ち運びできる目標ボード

「前回は45cm織ったから今回は50cmを目指そう！」

「織りは目標に届かなかったけど、製品が良くできたから◎」

目標が明確に！

結果を記入することで、振り返りもできた

作業内容の細分化・視覚化
上記d, e, f

製品の工程ごとにケースを分けて材料を準備しました

一目で必要な作業がわかる

自分で工程を選び、作業を進められた

その日に終えた材料をケースに入れて戻すことで、次の日の準備ができ、生徒たちも次の日の作業をイメージしやすくなった

店作りを意識した戦略会議
上記e, g

全体で売れた製品の確認

売れそうなものは？

今後何を作っていく？

戦略会議を元に、自分の担当工程を検討

コースターがよく売れたから、たくさん作った方が良いと思います

ストラップがあまり残ってないから、作った方が良いと思います。

「ティッシュケースのミシン縫いをします」

「コースターのアイロンかけをします」

活発な意見

作業意識の向上

全体目標が明確に

班全体でショップでの販売にむけた取り組みへ

考察

作業学習は楽しいけど・・・

全体では何を目標に？

自分がするべき作業は？

作業の達成度は？

・工程や成果を一目で分かる形に
・作業を自分で選択・確認できる教材・教具の活用
・話し合いへの参画（戦略会議、ふりかえり）

自分の役割がよく分かる

目標を立てやすい！

見通しを持ちやすい！

成果を確認しやすい

・作業への意識向上
・成果、課題の気づき
・班の一員としての参画意識向上

作業にやりがいを感じながら、班の一員として自ら目標を考え主体的に取り組むようになった。